

リスクとハザード

※ 公園で遊ぶ時、これだけは覚えていてください

○遊具の安全に対する基本的な考え方

リスク

遊びの楽しみの要素で冒険や挑戦の対象となり、子どもの発達にとって必要な危険性は遊びの価値のひとつである。子どもは小さなリスクへの対応を学ぶ事で経験的に危険を予測し、事故を回避出来るようになる。また、子どもが危険を予測し、どのように対処すればよいかの判断が可能な危険性もリスクであり、子どもが危険をわかっていて行うことはリスクへの挑戦である。

ハザード

遊びが持っている冒険や挑戦といった遊びの価値とは関係のないところで事故を発生させる恐れのある危険性である。また子どもが予測できず、どのように対処すればよいかの判断不可能な危険性もハザードであり、子どもが危険をわからずに行うことはリスクへの挑戦とはならない。

※ これは、いずれも国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」改訂版からの引用です。

・要は、冒険や挑戦の対象となるリスクは遊びのひとつ、小さなリスクを経験する中で、危険に関する感受性や事故への回避能力を高め自己防衛能力を養う事につながる。ハザードは冒険や挑戦とは関係なく事故を発生させる。危険が予測できず対処の判断が不可能な危険性であるという事。

なお、ハザードには、遊具の配置や構造・維持管理の状態が原因となる物的ハザードと、不適切な利用方法や遊具周辺での行動、子どもの服装や持ち物などの利用する際の利用者に起因する人的ハザードというのがあります。

・市（公園管理係）では、この遊具に関するハザードを解消すべく直営（公園管理係）による点検と、公園委託業者による毎月の点検（いずれも公園施設業協会が実施している日常点検講習会を受講）、公園施設業協会に加盟している遊具メンテナンス業者による年一回の専門点検を実施し安全に遊具を利用できるよう管理しています。それ以外にも周辺町内会の皆様にも協力して頂き、意見等を頂いて改善に努めています。

公園には、一部の公園を除き、公園管理者は常駐しておりません。そのような状況で子ども達の安全を保つためには、保護者・地域住民・利用者と連携し、協力体制のなかで『協働』をご理解頂き取り組んでいきます。

※ 今後も安心・安全に公園を利用できるよう努めますので、

皆様のご協力宜しくお願いいたします。